

宮農総合センター 指導販売課 072(444)8001

表1 たまねぎに登録のある主な茎葉処理型の除草剤

薬剤名	HRACコード	10a当たりの農薬使用量	10a当たりの散布液量	使用方法	使用時期	使用回数
セレクト乳剤	1	50~75ml	100ℓ / 10a	雑草茎葉散布 または全面散布	雑草生育期 (イネ科雑草3~5葉期) ただし収穫21日前まで	3回以内
ホーネスト乳剤	1	75~100ml	100~150ℓ / 10a	雑草茎葉散布 または全面散布	雑草生育期 (イネ科雑草3~5葉期) ただし収穫14日前まで	2回以内

※HRACコードが同一であれば、有効成分が異なっていても同一系統の薬剤なので、連用は避けなくてはならない。

表2 たまねぎの病害に登録がある農薬

薬剤名	FRACコード	適用病害名	希釈倍数	使用時期	使用回数	10a当たりの散布液量
リドミルゴールドMZ	4、M03	ベと病、白色疫病	500~1000倍	収穫7日前まで	3回以内	100~300ℓ / 10a
ホライズンドライフルアブル	27、11	ベと病、白色疫病	2500倍	収穫3日前まで	3回以内	100~300ℓ / 10a
プロポーズ顆粒水和剤	40、M05	ベと病、白色疫病、 灰色かび病	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	100~300ℓ / 10a
ピシリックフルアブル	U17	ベと病	1000倍	収穫前日まで	3回以内	100~300ℓ / 10a

※FRACコードが同一であれば、有効成分が異なっていても同一系統の薬剤なので、連用は避けなくてはならない。

表3 なすのすかび病に登録がある農薬

薬剤名	FRACコード	希釈倍数	使用時期	使用回数	10a当たりの散布液量
トリフミン乳剤	3	2000倍	収穫前日まで	5回以内	100~300ℓ / 10a
ラリー水和剤	3	4000~6000倍	収穫前日まで	4回以内	150~300ℓ / 10a
ベルクート水和剤	M07	3000倍	収穫前日まで	3回以内	100~300ℓ / 10a
ダコニール1000	M05	1000倍	収穫前日まで	4回以内	100~300ℓ / 10a
カンタスドライフルアブル	7	1000~1500倍	収穫前日まで	3回以内	100~300ℓ / 10a
アミスター20フルアブル	11	2000倍	収穫前日まで	4回以内	100~300ℓ / 10a

※FRACコードが同一であれば、有効成分が異なっていても同一系統の薬剤なので、連用は避けなくてはならない。

表4-1 なすのうどんこ病に登録がある農薬

薬剤名	FRACコード	希釈倍数	使用時期	使用回数	10a当たりの散布液量
トリフミン乳剤	3	2000倍	収穫前日まで	5回以内 (パンチョTF顆粒水和剤と 合わせて5回以内)	100~300ℓ / 10a
ラリー水和剤	3	4000~6000倍	収穫前日まで	4回以内	150~300ℓ / 10a
パンチョTF顆粒水和剤	3、U06	2000倍	収穫前日まで	2回以内	100~300ℓ / 10a
ベルクート水和剤	M07	3000倍	収穫前日まで	3回以内	100~300ℓ / 10a
モレスタン水和剤	UN、M10	2000~3000倍	収穫前日まで	3回以内	100~300ℓ / 10a
フルピカフルアブル	9	2000~3000倍	収穫前日まで	4回以内	100~300ℓ / 10a
アミスター20フルアブル	11	2000倍	収穫前日まで	4回以内	100~300ℓ / 10a

※FRACコードが同一であれば、有効成分が異なっていても同一系統の薬剤なので、連用は避けなくてはならない。

※モレスタン水和剤は、盛夏の高温時および施設内の高温時での使用は、葉害を生じる恐れがあるので、所定範囲内での低濃度で使用する。また、定植直後や幼苗・軟弱苗などには使用しない。

表4-2 野菜類のうどんこ病に登録がある農薬

薬剤名	FRACコード	希釈倍数	使用時期	使用回数	10a当たりの散布液量
ボトキラー水和剤	B M 2	1000倍	発病前~発病初期	—	150~300ℓ / 10a
サンクリスタル乳剤	—	300~600倍	収穫前日まで	—	150~500ℓ / 10a

※FRACコードが同一であれば、有効成分が異なっていても同一系統の薬剤なので、連用は避けなくてはならない。

※ボトキラー水和剤は、野菜類で登録がある。

※サンクリスタル乳剤は、なすで登録がある。なす、ピーマン、はくさい、チンゲンサイ等に使用する場合、幼苗期には、葉先枯れを生じる事があるので使用しない。また、高温時には、葉に葉害を生じる事があるので、施設では温度管理に十分注意する。